



2024 年 12 月 26 日放送

日薬アワー FIP(国際薬剤師・薬学連合)国際会議 2024・ FAPA(アジア薬剤師会連合)学術大会 2024 報告

日本薬剤師会
常務理事 豊見 敦

この秋に開催された国際的な薬剤師の学会を二つご紹介したいと思います。

第 82 回 FIP（国際薬剤師・薬学連合）の世界大会

まず一つ目は、第 82 回 FIP（国際薬剤師・薬学連合）の世界大会です。

FIP は薬学に関する世界的な組織でして、158 の国の組織や個人会員を通じて、世界中の 400 万人以上の薬剤師、薬学科学者、薬学教育者で構成されています。

本部はオランダにあり、通年でデジタルイベントを開催したり、様々な提言を発表したりという活動を行っています。WHO と共同でも多くのプロジェクトがすすめられています。

年に一度開かれる世界大会。今年は、令和 6 年 9 月 1 日～4 日にかけて南アフリカ共和国のケープタウンで開催されました。97 か国から 3350 名を超える薬剤師が集まりました。会場では 68 の企業・団体が展示を行い、106 の公式セッションが行われ、701 のポスター発表が行われました。日本からは飛行機で丸 1 日かかる距離ではありますが、32 名の参加があったとのこと。

大会のテーマは「Innovating for the Future of Healthcare（医療の未来のためのイノベーション）」でした。

会場のケープタウン International Convention Centre にはアフリカ地域の薬剤師も多く訪れており、色とりどりの民族衣装に身を包んだ参加者も多く、国際学会ならではの雰囲気を感じられました。

開会式で講演を行った FIP のポールシンクレア会長は「現在の不公平な医療アクセス、医薬品不足、AMR 対策、低品質医薬品や偽造医薬品などの課題に対処するためには、薬剤

師のプロフェッションについてさらに進歩が必要」として、公衆衛生の課題を解決するには薬学のイノベーションがさらに必要だと述べました。また薬剤師の誠実さ、実績、情熱という3つの原則で薬剤師のプロフェッションがさらに発展していくだろうと述べました。

そして今季から FIP が行っている **think·health·think·pharmacy** のキャンペーンについても語られました。これは薬局をプライマリーヘルスケアの提供場所だということを人々に認識してもらおうというキャンペーンです。

また、南アフリカの保健局長の講演では、「地域社会の中心に位置する薬局は、最もアクセスしやすい医療提供施設の1つであり、多くの場合、薬局は国民の最初のケアの拠点である」と述べられました。さらに「必要なサービスを提供し、健康を促進すること、国民のヘルスリテラシーを向上させる役割を薬局が担っている」とも述べられました。また南アフリカの薬剤師がコロナ禍でワクチン接種キャンペーンにおいて果たした役割の大きさについても強調されました。南アフリカでは近年健康保険の制度が成立したとのことで、国民全体が基本的な医療を受けられる体制づくりにむけて動いており、薬剤師の役割りに期待が寄せられていることも紹介されました。

今回の FIP では次の3つの主要トラックに分かれてセッションが企画されていました。まず一つ目は「公平で質の高い医療の実現」です。

このトラックでは、地理的・社会経済的な格差を超えて、すべての人々が質の高い医療にアクセスできるようにするための薬剤師の役割が議論されました。特に、ユニバーサルヘルスカバレッジの推進における多様なステークホルダーとの協働や、薬剤師の新たな役割についてフォーカスが当てられました。アフリカという広大な土地でいかに医療を提供するかと言った観点での議論も行われました。

そして二つ目は「革新的な創薬とアクセス」です。近年、科学・デジタル化・テクノロジーの融合により様々に医療の革新が起こっています。このトラックでは、製薬における研究やバイオテクノロジーの進展による最先端の治療法、個々の患者に合わせた個別化医療の実現について議論されました。

三つめは「AI による医療の革命」です。AI や機械学習が現在の医療システムに少なからず影響を与え始めています。このトラックでは、電子的な健康記録や患者履歴、医療研究から得られるデータを活用した診断アルゴリズムや、個々の遺伝情報やライフスタイルに基づく予測分析の活用についても紹介されました。

薬剤師の専門分化に関するセッションでは FIP の新しいレポートが発表され、サハラより南に位置する国々のケーススタディが公表されました。これらの国々は疾病の負担は最も世界で高く、医療従事者の密度は最も低い地域とされている国々です。各国の薬剤師に関する施策を検討する際の材料として活用されることとなります。

FIP の期間中は様々な会議も並行して開催されています。日本薬剤師会をはじめとした

世界各国の加盟団体の代表者が集まり、FIP の理事会が開催されます。そこでは今後の運営についての議論を行います。これまで WHO のリージョンにそってそれぞれの地域で独立して活動していた地域フォーラムを、FIP 本体の組織に再編する議論が進められてきました。また各国の経済的な格差と会員数を基にした負担金をどのように設定するかといった議論も続けられています。このような形で加盟団体の意見をききながら運営方針が定められていきます。

FIP では定期的にデジタルイベントが開催されており、どなたでも日本国内から視聴できますので海外の動向や他の国の薬剤師の業務等に興味がある方はぜひ確認してみてください。

FAPA 第 30 回アジア薬剤師会連合学術大会

次にご紹介するのは FAPA の 30 回大会です。

FAPA は 1964 年に日本も創立メンバーの一員として設立されたアジアの薬剤師の団体でフィリピンのマニラに本拠地があります。

通常は 2 年に 1 回の学術大会なのですが、昨年臨時の大会が開かれましたので、3 年連続での開催となりました。

10 月 29 日から 11 月 2 日の日程でソウル COEX で開催された 30 回の記念大会、今回は FAPA 創立から 60 周年の記念ということで、会場には、FAPA 創立 60 周年を記念して、これまでの歩みを振り返る展示コーナーも設けられていました。

大会にはアジアの 25 カ国以上から過去最高の 1,700 名が参加し、105 の演題と 611 のポスター発表が行われました。

大会 1 日目は非公開の理事会が開催され、2 日目には施設見学やプレコンGRES と呼ばれる講演が開催されました。施設見学では 17 のコースに 471 名が参加したとのこと。ソウル市内にある 24 時間年中無休の薬局等が見学のコースになっていました。薬局以外には病院や製薬工場の見学ツアーが行われましたが、化粧品メーカーの見学も人気があったようです。

プレコンGRES では、米国の予防接種への協力を例に薬剤師が公衆衛生の考え方の元、健康アウトカムを改善するために他の医療従事者と協力する必要性についての講演が行われました。

3 日目に開会式が開催され本日程がスタートします。4 日目と 5 日目は各小会場でも分科会が設定され、薬局や、病院などそれぞれのセッションごとの発表が行われました。

今回の FAPA には、昨年和歌山で開催された日本薬剤師会学術大会でポスター最優秀賞に選ばれたフロンティア薬局日立店の丸田勇樹先生に日本薬剤師会からの派遣事業という

ことでポスター発表を行っていただきました。

今後も、日本の取り組みを海外に発信するとともに、日本での研究を支援する取り組みを進めて行きたいと思っています。

また、本大会の期間中、日本薬剤師会と韓国薬剤師会の会談や FAPA 役員の方々との会談が行われ、それぞれの協力関係を推進していくことが改めて確認されました。

今大会では FAPA の 60 周年を迎え、次の 10 年間のロードマップとして「FAPA Roadmap for Asian Pharmacy 2034」が発表されました。組織の発展、患者安全、医薬品システム強化、健康促進といった重点分野が掲げられ、アジア地域における薬剤師の役割を強化する方針が示されたものです。今後 10 年間での取り組みが期待されています。

今回日本で他の複数の大きな学会と日程が重なっていたこともあって、スケジュールの調整に苦勞した先生方が多かったようです。とはいえ、まだまだアジアの他の国々と比較して日本からの参加者は多くはありません。ぜひ多くの方にご参加いただきたいと感じているところです。

2026 年の FAPA はタイのバンコクで開催されます。学会日程最後の二日間だけでも十分吸収するものがあると思います。是非みなさんも参加してみてください。